

令和7年11月10日
 スポーツ推進部
 スポーツ推進課

東京2025世界陸上開催に伴う
 アメリカ陸上チームのキャンプ実施結果について

1 主旨

本年9月に開催された東京2025世界陸上競技選手権大会に伴い、大蔵運動場においてアメリカ陸上チームのキャンプの受け入れを行った。今般、その結果を取りまとめたので報告する。

2 キャンプ概要

(1) 実施期間

令和7年9月2日(火)～20日(土)

(2) キャンプ実施施設

- ① 大蔵運動場陸上競技場(世田谷区大蔵4-6-1)
- ② 大蔵運動場温水プール(同)
- ③ 大蔵第二運動場トレーニングルーム(世田谷区大蔵4-7-1)

(3) 利用人数(選手およびコーチの延べ利用人数)

1,281人

(4) 区民とアメリカチームとの交流

① 公開練習見学会

区民等の大蔵運動場陸上競技場来場者数

開催日	時間	見学した区民等	選手・コーチ
9月6日(土)	午後3時～7時	696人	36人
9月7日(日)	午前9時～12時	860人	48人
9月13日(土)	午前9時～11時30分	250人	47人
合計	—	1,806人	131人

② 交流事業

アメリカチームのコーチ、選手から区民(生徒)が直接、指導アドバイスを受ける交流をする機会を設けた。

- ・日時 9月12日(金) 午後5時～午後6時30分
- ・参加者 区内中学校の生徒59名、アメリカ陸上チームのコーチ及び選手14名

3 その他

詳細は別紙「USATF(アメリカ合衆国陸上競技連盟)東京2025世界陸上トレーニングキャンプ実施結果報告書」のとおり。

USATF（アメリカ合衆国陸上競技連盟）
東京2025世界陸上トレーニングキャンプ
実施結果報告書



世田谷区



USATFTM

令和7年10月

世田谷区スポーツ推進部

はじめに

東京2020大会でのキャンプ実施決定をきっかけに、世田谷区はアメリカ合衆国のホストタウンとして登録され、2021年には、延べ3400名を越えるキャンプを実施した。

また、アメリカ合衆国オリンピック・パラリンピック委員会（以下「USOPC」という）と覚書を取り交わし、東京2020大会を通じて培ったパートナーシップを、大会のレガシーとして継続していくことを決定した。

東京2020大会後も、USOPCやアメリカ大使館を通じ、これまで様々な交流を行ってきたが、2024年10月にUSOPCを通じて、アメリカ合衆国陸上競技連盟（以下「USATF」）より、2025年9月開催の東京2025世界陸上競技選手権大会の練習場として、区立総合運動場陸上競技場を使用したいとの依頼があり、受け入れを決定した。

今夏、トレーニングキャンプを実施したため、詳細について報告する。

世田谷区スポーツ推進部

【世界陸上トレーニングキャンプ概要】

1. 日程

令和7年9月2日（火）～9月20日（土）

- (1) 設営：9月2日（火）
- (2) 選手利用期間：9月3日（水）～9月20日（土）
- (3) 撤去：令和7年9月20日（土）

※ 東京2025世界陸上競技選手権大会日程
令和7年9月13日（土）～21日（日）

2. キャンプ実施施設

- (1) 大蔵運動場陸上競技場
- (2) 大蔵運動場温水プール
- (3) 大蔵第二運動場トレーニングルーム

3. 利用時間

- (1) 大蔵運動場陸上競技場
午前9時から午後9時（占有）
- (2) 大蔵運動場温水プール
午前9時から午後9時（1レーン占有）
- (3) 大蔵第二運動場トレーニングルーム
①午前9時から午前11時 ②午後6時～午後10時（占有）

4. 利用人数

延べ1281人（選手とコーチの延べ人数）がキャンプ中に施設を利用し、合計26個のメダルを獲得した。

	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日
利用者数	0	20	54	56	75	96	79	97	123	122
(人)	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	合計
	165	65	57	59	64	51	55	33	10	1281

【キャンプ詳細】

1. セキュリティ対応

安全なキャンプ実施を達成するため以下の取組みを行った。セキュリティ対応について、警察、東京2025世界陸上財団等と確認を行いながら検討した。

(1) ID管理

大蔵運動場陸上競技場内には区職員、世田谷区スポーツ振興財団職員の職員証所持者、成城警察署警備課職員およびUSATF発行のID所持者以外の入場を制限した。



USATF発行のID

(2) 選手・スタッフの移動

複数のバス誘導員が、公園内に選手・スタッフが乗ったシャトルバスを安全に走行させ、陸上競技場通用門前までバスを誘導した。陸上競技場の近くまでバスを誘導し、選手の乗降を行うことで、陸上競技場との移動距離を極限まで短くするとともに、選手とファン等が接触するリスク管理を徹底した。



複数の誘導員がバスを誘導

陸上競技場通用門前

バス乗降の様子

(3) 警備員の配置（陸上競技場内）

陸上競技場入口に警備員を常時1名配置し、アメリカ陸上チーム、区職員、世田谷区スポーツ振興財団職員、成城警察署警備課職員以外の出入りを禁止した。



警備員（陸上競技場内）

(4) 警察官の配置（陸上競技場内）

不測の事態にも即時対応できるよう、成城警察署と連携し、常時1名の警察官を、陸上競技場内に配置した。練習見学会開催時には1名増員し、2名体制で安全管理を行った。

(5) 大蔵第二運動場トレーニングルーム、温水プールへの選手誘導

陸上競技場でのトレーニングがメインであるが、種目により筋力トレーニング等が必要なため、トレーニングルーム、温水プールへ選手を案内した。案内の際は、区の職員、ボランティアが同行し、警備を行った。

2. アメリカチームの練習について

アメリカ陸上選手が本大会でベストパフォーマンスを発揮するため、トレーニングやコンディション調整などを行った。

(1) 大蔵運動場陸上競技場

- ・メインの練習会場であり、短距離、中距離、長距離、投てき、跳躍など、様々な種目の陸上選手が利用した。
- ・多目的室はミーティングルーム兼リカバリー室になり、ストレッチやアイシング等、選手のケアを行った。



陸上競技場内の横断幕

トレーニングする短距離選手

リカバリー室（多目的室）

(2) 大蔵運動場温水プール

- ・長距離種目や十種競技、七種競技の選手が主に使用した。頻度は少なく、数回の利用に留まった。

(3) 大蔵第二運動場トレーニングルーム

- ・投てき種目や十種競技、七種競技の選手が主に使用した。ほぼ毎日利用があった。



トレーニングルームでの練習の様子

3. ボランティア

東京2020大会実施時に参加したボランティアなど、計27名（延べ100回）のボランティアにご協力いただいた。英語が堪能なボランティアも多数おり、選手やコーチとのコミュニケーションをとり、質問や要望に応えていた。

【公開練習見学会】

1. 概要

選手の練習等を区民が陸上競技場のスタンドより観覧できる機会を設けた。

2. 日時

- (1) 9月 6日(土) 午後3時～午後7時
- (2) 9月 7日(日) 午前9時～12時(午前11時30分終了予定から延長)
- (3) 9月13日(土) 午前9時～午前11時30分
(大会初日のため、アメリカチームの打診により、午後4時30分～午後7時予定から変更)

3. 内容

陸上競技場のスタンドおよびトラック側にグリーティングスペースを設置。選手との写真撮影やサイン等の交流ができるようにした。また、投てき種目が観戦スタンドからは離れていたため、第3コーナー付近まで観戦可能エリアを広げ、様々な角度から、近くで練習が見学できるようにした。



グリーティングスペース



コーナーで観戦する見学者



サインに応じる選手

4. 参加人数

開催日	時間	見学した区民等	選手・コーチ
9月 6日(土)	午後3時～7時	696	36
9月 7日(日)	午前9時～12時	860	48
9月13日(土)	午前9時～11時30分	250	47
合計	—	1806	131

5. サプライズイベント

9月6日(土)、短距離走のコーチより提案があり、見学会に参加していた小学生8名と短距離走のコーチと一緒に走るサプライズ交流会が実施された。

さらに、女子七種競技のアンナ・ホール選手も飛び入り参加。100Mを10人で走った。(アンナ選手は後日金メダルを獲得)



急遽参加いただいた見学者



100M走スタート前



サインに応じるアンナ選手

【コーチ・選手による実技アドバイス交流】

1. 概要

区民と選手が交流できる機会を設ける。

2. 日時

9月12日（金） 午後5時～午後6時30分

3. 内容

生徒は複数グループに分かれ、走り幅跳び、リレーのバトンパス、スプリント、ミニハードドリル等のセクションに参加。セクションごとに、コーチ・選手から実技アドバイスをもらおうと共に、交流を深めた。

4. 出席者

区内中学校 生徒59名、アメリカ陸上チームのコーチ及び選手14名



【アメリカ陸上チーム歓迎セレモニー】

1. 概要

USATFのCEO等の幹部と区長、区スポーツ振興財団理事長との面会及び歓迎セレモニーを実施した。

2. 日時

9月12日（金）午後4時55分～午後5時10分

3. 内容

区長、世田谷区スポーツ振興財団理事長とアメリカ陸上チームの面会、挨拶、メッセージ記載の横断幕の贈呈、花束の贈呈、写真撮影

4. 出席者（左より）

Curt Clausen（President）

Vernon Norwood

Dalilah Muhammad

Max Siegel（Chief Executive Officer）

保坂区長

石崎スポーツ振興財団理事長

他、アメリカ陸上チーム選手・スタッフ一同



【参考：東京2025世界陸上大会結果】

(1) 国別メダル獲得数（上位3国・地域）

	国・地域	金	銀	銅	合計
1	アメリカ	16	5	5	26
2	ケニア	7	2	2	11
3	カナダ	3	1	1	5
40	日本	0	0	2	2

【参考】アメリカの過去大会結果

	開催国／開催都市	金	銀	銅	合計
2023年	ハンガリー（ブダペスト）	12	8	9	29
2022年	アメリカ合衆国（オレゴン）	13	9	11	33
2019年	カタール（ドーハ）	14	11	4	29

アメリカのメダル獲得数は、前回の2023年ハンガリー（ブダペスト）大会と比べると3個減少したものの、金メダルは4個増加した。

アメリカの一大会あたりの金メダル獲得数は、今大会が世界陸上史上最多の獲得数となった（これまでの米国の金メダル最多記録は14個で、2005年、2007年、2019年の3回記録）。

(2) 主な競技記録

男子／200M、5000M、110Mハードル、400Mハードル、
4×100Mリレー、砲丸投げ、

女子／100M、200M、400M、4×100Mリレー、

4×400Mリレー、棒高跳び、走り幅跳び、円盤投げ、七種競技
混合／4×400Mリレー

※上記種目で金メダルを獲得

(3) 大会入場者数

観客数／61万9288人（国立競技場）

【参考】1991年 東京大会／58万1462人（旧国立競技場）

2007年 大阪大会／35万9000人（長居スタジアム）